

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人けやの森自然塾

事業名	日高の里山再生と森林環境教育
枠の種類	分野指定枠
分野	みどりと川の再生
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<p>かつて地域住民の生活と密接な関係があった里山も、現代の生活スタイルでは「活用」とは程遠く、手入れがなされずに放置され、竹や篠などが繁茂し始めている。人の手が入らない山林は景観を損ねるばかりではなく、ゴミの不法投棄や、台風等の自然災害での倒木や、立ち枯れなどが発生し、危険な状態にもなっている。地域住民も近寄りがたい場所となりつつある場所を手入れすることで、地域社会にも貢献する。</p> <p>また、整備を進める雑木林にて、県内の保育園、学童保育室など（1クラス単位おおむね30名程度）を対象として、森林環境教育を行う。林の保全体験や自然の遊びを通して、自然の中で活動する楽しみや心地よさ、自然の仕組みや生活との関連性、森林の役割などを学び、将来を担う子供達の、緑を守ろうという気持ちを養う。</p> <p>遺産相続や所有者の高齢化に伴い、かつて里山として地域社会のなかで活用されていた雑木林が、長年手入れがなされず、荒廃した山林になってしまった。そんな雑木林に再度人の手を入れ、整備することで、地域住民の集う場所となり、憩いの場となるだけでなく、県内の子供達にも環境教育の場として活用することで、平地林の魅力を伝え、緑を守る気持ちを育むとともに、自然体験活動の普及に努めたい。</p> <p>親世代に自然体験の経験が乏しいため、その子供達ももちろん経験が少ない。また、自然の中で思う存分遊べるという環境も少なくなっている。</p>
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>(1) 整備保全 長年手入れが滞っていた山林を整備することで、里山を再生し、近隣住民の憩いの場とするとともに、環境教育を安全に実施できるようにする。</p> <p>(2) 生物多様性保全のための調査 今後の保全活動の指標とするために、現在の生物・植物の生息状況を確かめ、整備の範囲や度合いを決める。</p> <p>(3) 森林環境教育 林の保全体験や自然の遊びを通して、自然の中で活動する楽しみや</p>

	心地よさ、自然の仕組みや生活との関連性、森林の役割など、遊びを通して学び、将来を担う子供達の、緑を守ろうという気持ちを養う。
③個々の事業の内容・実施結果	<p>(1) 整備保全</p> <p>①時 期：6月から2月</p> <p>②場 所：埼玉県日高市馬引沢地内（147、148、157、158）の雑木林</p> <p>③スタッフ：ボランティアスタッフと自然塾スタッフ。高所枝打ち、高木伐採は専門業者に委託作業とする</p> <p>④実施内容：間伐、下草刈り、枝打ち、枯損木の除去、竹篠の抜根、植樹、つる切り等。（竹や篠は重機をリースして抜根）</p> <p>(2) 生物多様性保全のための調査</p> <p>①時 期：6月から7月</p> <p>②場 所：埼玉県日高市馬引沢地内（147、148、157、158）の雑木林と隣接する畑や水路</p> <p>③スタッフ：けやの森自然塾スタッフ、一般財団法人自然環境研究センター、里の生き物研究会</p> <p>④実施内容：植物、動物の基礎調査</p> <p>(3) 森林環境教育</p> <p>①時 期：6月から2月</p> <p>②対象者：県内の保育園、幼稚園、学童クラブ、エコクラブなど</p> <p>③場 所：埼玉県日高市馬引沢地内、日高市中沢地内の雑木林</p> <p>④スタッフ：自然塾のスタッフをはじめ、外部講師を依頼する</p> <p>⑤実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林内の散策と宝物探し（生き物、木の実、葉、等） ・落ち葉かき、チップ撒き、下草刈り、植樹、竹の伐採 ・間伐材を利用したキノコの菌打ち
④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容	<p>(1) 整備保全</p> <p>① 作業日数：のべ40日</p> <p>② 作業時間：のべ256時間</p> <p>③ 作業面積：のべ5000㎡</p> <p>④ 作業人数：のべ104人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年手入れがなされず、倒木や立ち枯れの木が発生している箇所600㎡の整備 ・竹、外来の草本類、木本類が多く発生している2400㎡の整備 ・篠が繁茂した2000㎡の整備

	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号により折れた枝の除去（委託） ・越境して市道にかかる枝の除去（委託） ・越境して隣地にかかる枝の除去 ・除去したコナラを活用したシイタケ棺木の作成 ・チップ敷き均し <p>（2）生物多様性保全のための調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息確認種リスト、生息状況、位置の地図への落とし込みと、その報告書一式。 ・調査報告書を参考に、次年度以降の整備の範囲と度合いを調整する。 <p>（3）森林環境教育</p> <p>① 参加人数：のべ254名</p> <p>② アンケート結果</p> <p>すべての参加団体が、林ならではの体験に満足したというアンケート結果を得られた。</p> <p>（アンケートコメント一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林の中で木々に囲まれ、ゆったりと過ごすことができた。時間に追われる感覚がなく、じっくり自然に触れることができた。 ・四季を通して継続して体験したい。 ・増えすぎて害になりつつある竹を活用して食器を作ったことで、人間の生活に役立てることができるし、林も健康になることを知ることができた。 ・竹を活用することで脱プラにもつなげることができると思った。 ・話を聞いて、温暖化については今すぐにできることから始めたいと思った。 <p>③ 成果</p> <table border="1" data-bbox="568 1496 1337 1639"> <tr> <td>植樹</td> <td>30本</td> </tr> <tr> <td>枝拾い、落ち葉かき、間伐体験、竹の伐採等</td> <td>3000 m²</td> </tr> <tr> <td>キノコの菌打ち</td> <td>30本</td> </tr> </table>	植樹	30本	枝拾い、落ち葉かき、間伐体験、竹の伐採等	3000 m ²	キノコの菌打ち	30本
植樹	30本						
枝拾い、落ち葉かき、間伐体験、竹の伐採等	3000 m ²						
キノコの菌打ち	30本						
③ 費用の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に購入した資機材を有効利用した。 ・購入するよりも安価なリースを利用した。 ・環境教育参加団体による、バス手配の協力を要請し、各団体にて交通費を負担してもらった。 ・けやの森学園所有のマイクロバスの利用により、バス費用を軽減した。 						

⑥地域社会への還元について	<ul style="list-style-type: none"> ・整備保全が進むことで、里山としての景観が回復した。 ・隣接する市道についても整備を行い、安全に通行できるようになった。 ・地域住民や近隣に勤務する方の憩いの場として、訪れる人が増えた。
⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が自由に活動できる場所がある。 ・経験豊かなスタッフが、子供達の活動の指導者として関わることができる。 (自然観察指導員、子ども環境管理士、保育士資格、林業関係者等) ・一般的にこのような活動は小学生以上が対象となるが、幼稚園、保育園などの幼児向けの指導案のノウハウがある。
⑧事業の実施体制	<p>○事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総括責任者：佐藤 朝代 ②連絡責任者：萩野 努 ③現場責任者：萩野 努 ④ 経理担当者：石原 紀子 ⑤ 広報担当者：須釜 あゆ
⑨来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<ul style="list-style-type: none"> ・購入した資機材を活用し、今後も継続して活動する。 ・環境教育に参加する団体に、補助金、助成金などの活用により、各団体にて交通手段を確保してもらえよう、案内する。 ・継続してボランティアスタッフ、けやの森自然塾スタッフによる保全作業を行い、整備の範囲を広げていく。 ・今回整備して伐採、抜根した箇所については、整地や植樹をしていく。 ・近隣住民と共同で作業できる日を設定したい。
⑩補足事項 (付帯意見への取組み結果)	<p><付帯意見>「来年度以降助成金がなくても、事業が自立的に継続できるような体制の構築に向けて、検討や工夫を行ってください。」</p> <p><取組み状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境教育への参加団体は、こうした自然に親しむ活動を高く評価し、参加団体自身がバスを用意して参加してくれる回数が増えてきた。そのため、これまで自然塾が助成金で用意してきたバスレンタル費用が減ることになり、事業が自立的に継続できる方向になってきた。 ・また、エコクラブの制度を案内することにより、参加団体自らが補助金等によってバスの運行費用を用意することにより参加してくれるケースが出てきた。 ・なお、自前でバスを購入して参加する団体も出てきた(例：すまいる保育園)。